

1 第 3 学年

2 題材名 「マイスプーンをつくろう」 (デザイン・工芸)

3 題材について

生活に生かされる題材

日常には多種多様の商品があり、私たちは消費者として日々選択していかなければならない。美術科としては、ものをよく見て様々な観点から自分にあった、自分の好きなものをせんとくできる力を身に付けさせたい。本題材は、木(角材)でスプーンをつくるものだが、デザインを構想する前に家から持ち寄ったお気に入りのスプーンを鑑賞させる場を設定した。何気なく思っていた一つのスプーンを、デザイン性や使いやすさなどの観点から鑑賞することにより、自分がつくりたい「マイスプーン」のイメージを明確にさせる手立てとした。

木育

日本人は、古来から木との関わりが深い。近年は、環境面からもその活用について注目をされている素材である。しかし、現在鉛筆を手で削ることさえほとんどなくなってしまった生徒たちにとって、木を加工する経験は大切であると考え。加工過程それぞれにおける道具の選択や、角材から荒切り、彫り、磨きと進むにつれ表情の変化を感じる楽しみなど、木の扱いを通して学ぶべきことは多い。富山県出身の木芸作家、稲本正氏の思想なども紹介しながら木に親しむ態度を育てたい。

工芸の本質(用と美)

工芸作品の制作において欠かすことのできないのは「用と美」という要素である。その両方を兼ね備えたものが優れた作品といえる。導入で各自が持ち寄ったスプーンを鑑賞する際、実際に手にとったときの持ち心地やすくいやすさ、口のあたり方などの観点と、デザイン性という2点について考えさせた。また、日本を代表する工業デザイナー、柳宗理の作品などにも触れ、作家が作品に込める思いについても考えさせたい。

4 題材の目標

- ・ 木に親しみ、手順を理解しながら意欲的に加工することができる。
- ・ 使いやすさと美しさを考えながら、自分が使いたいスプーンのデザインを構想することができる。
- ・ それぞれの加工過程に適した道具を選択しながら、使いやすく美しいスプーンを制作することができる。
- ・ 持ち寄ったスプーンや友達作品を鑑賞して、使いやすさと美しさという観点から自分の考えをもつことができる。

5 材料及び準備物

素材：桂材(35×35×150mm)、彫刻刀、木工バイス、のこぎり、ベルトサンダー、サンドペーパー(240# 500#)、オイル(LIVOS社)

6 指導計画（全10時間）

学習活動	評価規準	配時
鑑賞 ・ 家庭にあるスプーンを持ち寄って「用と美」の観点から鑑賞する。	・ 使いやすさと美しさという観点から自分の考えをもつことができる。(鑑賞)	1
発想・構想 ・ 鑑賞した作品を元に、自分が使いたいスプーンのアイデアスケッチをする。(全体図、平面図(横・上))	・ 使いやすさや美しさを自分なりに考えてデザインすることができる。(発想・構想)	1
制作 ・ 木取り ・ 荒切り(のこぎり) ・ 彫り(彫刻刀) ・ 磨き(ベルトサンダー、サンドペーパー) ・ オイルフィニッシュ	・ 使いやすく美しいスプーンを制作することができる。(技能) ・ それぞれの加工過程に適した道具を選択し手製策することができる。(関心・意欲・態度)	7
鑑賞 ・ 友達の作品を鑑賞する。	・ 具体的な表現で、観点別に自分が感じたことについて書いたり発表したりすることができる。(鑑賞)	1

7 実践を通しての考察

木を加工するという作業は、実際に体験するとその楽しさが実感できると考えている。荒切りで形が見え、彫刻刀でさらに形を整え、磨きの段階では表面がなめらかになるにつれ、徐々に木目がはっきりと見えてくる。その活動自体にその教材性が潜んでいると考える。

導入で市販スプーンの鑑賞を行ったことは、「用と美」の観点に目を向けさせるよいきっかけとなったと考える。その活動を受けて、自分のつくるスプーンの形にこだわりをもってデザインしていたと思う。

今回は比較的削りやすい桂材を使用した。作業段階で破損してしまうケースが見られた。次回は堅めではあるが広葉材の使用も検討したい。

のこぎりでの加工には木工バイスが欠かせない。また、挽き方や固定の仕方の指導は重要である。彫刻刀での作業は、木工作業台があれば最適であるが今回はすperiどめシートで代用した。なお、磨きは手作業だけでは効率が悪いのでベルトサンダーを使用した。

完成の後、家庭で使用した感想などについても調査をし、生活に生かされる美術の存在についても意識してくれることを願っている。

<作品例>

